



子育てについて

先日は、参観日に引き続き学級懇談会にも多数ご出席いただきありがとうございました。学級懇談会では、事前にお寄せいただいた議題を中心に懇談を行いました。その多くが子育てに関するものでしたね。3歳以上児クラスでは、お子様の言葉遣いや親への口ごたえなどに関する話題が多かったように思います。



泣きわめいたり、口ごたえをしたり、すぐにキレたりと、子どもには育てにくい時期があるものです。発達心理学が専門の恵泉女学園大学学長、大日向雅美氏が行った調査によると、お母さんの9割強は「育児をつらく思うことがある」そうです。その理由として、「子どもが思い通りにならない」「育児に追われて時間や行動に自由がない」などが挙げられています。今年の母の日に、毎日新聞社が育児ママを対象に行ったアンケートによると、今一番ほしいもの、それは「自分だけの時間」が3割でトップだったそうです。核家族の多い現代では、両親、特に母親に子育ての負担がかかっていることの表れと言えます。子育てが「孤育て」になっていると大日向氏は言っています。

子育てに不安やストレスを抱えたとき、まず園の職員に話をしてみられませんか。職員も一緒に子育てをしているパートナーです。一人で抱え込まず、つらいときは「つらい」と吐き出して、遠慮なく寄りかかってください。必要であれば子育て支援の関係機関を紹介することもできます。

決していい父親だったとは言えませんが、私も子どもが3人いました。長女が結婚する前に、幼い頃から撮りためていたビデオテープを、3人分全部DVDにしてみんなに渡してやろうと思い、ダビング作業をしました。(ビデオテープでは、再生する機械がいずれなくなるだろうと思ったからです。)

ビデオには、私が子どもといっしょに鬼ごっこをしたり、ブランコを押してやったり、自転車の練習、キャッチボールなど、特別なことでもない何気ない日常の動画が山ほどありました。しかも、子どもたちが小さい時ほどビデオの数が多いのです。私も若い頃だったので、休日には家族で過ごす時間も十分あったのでしょう。動画を観返していると、あの頃は時間がとてもゆっくりと流れていたように感じます。

でも、次第に、私は仕事の面で時間の余裕がなくなっていく、子どもたちも休日は友達と過ごすことが増えたのでしょう、ビデオの数は急激に減っているのです。

今思えば、子どもが幼い頃が一番家族を感じる毎日でした。子どもは親と遊ぶことを楽しみにし、親も子どもと過ごす時間に幸せを感じていました。叱ったり叱られたりしたこともたくさんあったに違いありませんが、それらは全部浄化されているのでしょう、ほとんど覚えていません。

幼児教育を専門とし、文化功労賞を受賞された内田伸子氏は、著書「子育てに『もう遅い』はありません」で、こうおっしゃっています。

「子どもが子どもでいられる期間は長いようで、とても短いものです。『いい親』になろうとがんばり過ぎず、焦らず、お子さんといっしょに一歩ずつ、楽しみながら前に進んでください。」

「子どもにとって、親はかけがえのないものです。特別なことをしなくても、子どもといっしょに笑い、泣き、考え、行動するという時間を共有するだけで、子どもはぐんぐん成長していきます。」

子育て真っ最中の保護者の皆様も、数十年後には「あの頃が一番よかったな」と、今の幼稚園児の頃を振り返られる時が必ず来ます。日々の子育ての悩みもきっと、歳月というフィルターでろ過されていくはずですが、子育てというと、子どもの上に立って教えていかなければと構えてしまいがちですが、いっしょに楽しく過ごせる時期は今しかありません。大河のような緩やかな流れに身を任せて、時に愚痴もこぼしながら、どうぞ今の子育てを謳歌されてください。(園長 寺本 明生)